

大分大学医学部医学科教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー:CP)

医学部医学科では、卒業認定・学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる知識や能力を修得するために、次のような教育内容と方法を取り入れた教育を実施する。

<教育課程の編成と教育内容>

1. 医学科は、広く教養を学び知識の調和を保ち、総合的、自主的な判断力を養い、厳しい訓練を通じて人間の生命の尊厳に対する自覚を培い、21世紀の医学と医療の担い手として6年間で知識と技術を習得するために、以下の方針で教育課程を編成・実施する。
2. 「教養教育」では、医師としての基本的な教養や倫理観、豊かな人間性を育てる。国際的にも活躍できるよう6年間継続した医学英語教育を実施する。
3. 「専門教育」では、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を完全実施出来るカリキュラムを構築する。「基礎医学」では医学に必要な基礎的知識と技能を身に付け、「臓器別コース」では基礎と臨床を機能別に統合したカリキュラムを導入し、問題解決型学習法（PBL、チュートリアル教育）や、チーム基盤型学習（TBL）を取り入れ、問題解決能力や自己学習習慣の習得を図る。
4. 「研究室配属」では、本学あるいは国内外の研究施設で研究に従事し、科学的論理的思考やリサーチマインドを涵養する。
5. 「臨床実習前導入教育」では、臨床実習にとって必要な診察手技、診断学などの講義・実習を行い、学習によって到達した知識、技能を医療系大学間共用試験（CBT、OSCE）で検証した上で、総括的評価に合格した学生が臨床実習に参画できることとする。
6. 「臨床実習」では、診療参加型実習（クリニカル・クラークシップ）を実施する。さらに、地域医療に貢献する能力を身につけることを目的とした地域医療学実習、救急車同乗実習を行う。

<教育方法>

1. 将来、専門領域の優れた知識と能力を修得するための基礎として初年次に選択科目を取り入れた教養教育科目および専門基礎科目を実施する。この教育により専門領域の基礎となる学問や幅広い領域の知識や考え方を学修し、豊かな人間性や的確な判断能力、多様性の認識と受容などの能力養成をめざす。
2. 医学を効率よく学修するために、まず基礎医学コースとして正常編、病態編を総論的に学び、それぞれの臓器別に分かれた臓器別コースで基礎医学から臨床医学までを含めて各コースで包括的学修を行い、臨床医として必要な知識修得を主とした学修を行う。
3. 将来医療人として活躍するために、疾病や人体の機能を明らかにしようとする、研究マインドを要請するために、大学の研究室で約3か月間の研究活動を行う。
4. 臨床医として必要な、知識、技能、態度を要請するために、4年次後期から、実際の医療チームのメンバーとして実際の診療に参加する、診療参加型臨床実習を行う。
5. 学修期間を通して、学修者が主体的に学修が出来るように、講義でのグループ討論、チ

ュートリアル教育などのアクティブラーニングを積極的に取り入れて、学修効率が向上する方法を取り入れている。

<学修成果の評価>

1. 教育目標（知識、技能、態度）に応じて、筆記試験、レポート、実地試験、観察試験などで評価を行う。
2. 4年次には全国統一の全国医科共用試験（CBT と OSCE）の合格および、その他必要な単位履修して初めて臨床実習に参加できる。
3. 臨床実習の一部科目ではポートフォリオを用いた自己達成度を評価する。
4. 6年次には、専門教育科目ごとの卒業試験と Post-CC OSCE（臨床実習後の臨床実技試験）により、知識・態度・技能を総合的に評価して卒業判定を行う。
5. 全ての授業の成績、全国医科共用試験や国家試験の成績、進級率、学生による授業評価、研修先の病院等からの評価などのデータを蓄積し、医学教育のグローバル・スタンダードに基づいてカリキュラムの改善を継続的に行う。

学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。

大分大学医学部看護学科教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

<教育課程の編成と教育内容>

看護学は、人間の健康問題にかかわる身体的、精神的、社会的側面のあらゆる反応に対して、その恒常性の維持と健康の増進を図るため、Science と Art を統合した実践科学である。

看護学科は、看護学を基盤に、地域・臨床での実践、教育、管理及び研究分野において活躍する人材の育成にむけ、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる7つの能力を学修するために、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。

1. 「教養教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門教育科目（看護学全般、統合分野・看護研究、臨地実習）」による編成とし、早い時期から看護学に触れる機会を提供するため、1年次から4年次までくさび型に配置する。また、学生の多様な興味と関心にそえるように選択科目を多く設ける。
2. 「教養教育科目」は、看護学を学ぼうと本質的土台となる科目群である。人間の生命の尊重、人権の尊重、人間の理解などを通して人間的成長を促す。
3. 「専門基礎科目」は、「専門教育科目」へ発展するための基盤となる科目群である。看護学の主要概念である人間、健康、環境に関する知識の修得を図る。
4. 「専門教育科目」は、専門職としての基礎を培う科目群であり、1年次から4年次までの学修過程に合わせて段階的に配置する。講義・演習では、看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得を図る。また、臨地実習では、教室で学んだことを臨地で確かめ、看護の理論と実践を有機的に統合し、看護実践能力を育成する。

<教育方法>

1. 看護実践能力の基盤を形成する講義・演習科目は、主体的に学ぶ力や学生相互に学び合う力、問題解決能力を培うため、少人数グループのアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を実施する。
2. 学生の主体的に学ぶ力を培い事前学修および事後学修を促すために、eラーニングシステムを活用した授業を設計する。
3. 臨地実習は、多様な看護実践の場において、学生個々がこれまで学んだ知識を統合し、看護の対象者に自分で考えた看護を実践・評価し、看護学の探究と自己の看護観を深める学修である。そのため、学生が主体的、能動的に実践し学べるよう臨地側指導者と教員とで協働し、学修環境を整える。
4. 臨地実習や看護研究においては、試験等では測定できない学生個々がもつ個性や可能性を考慮しながら学修状況を把握し、個別的な教育・指導を行う。

<学修成果の評価>

1. 学生を対象に各授業科目およびカリキュラム全体の教育評価に関する調査を行う。調査をとおして、学生は、授業科目の学修目標の到達度やカリキュラム履修による自己の成長を評価する。また、教員は、学生の視点や意見を把握し、担当する授業科目や

カリキュラム全体の評価を行う。

2. 2. 4 年次のローテーション実習や看護学総合実習、看護研究は、1～3 年次の学修を統合し、学生個々が主体となって看護学を探究する授業科目であるため、統合的な学修になりえているのか調査を行い、教育評価に活用する。
3. 卒業を目前にした 4 年生に対して教育評価調査を実施し、カリキュラムの履修を通じて身につけた能力や成長に対する認識、教育内容・方法についての意見を把握し、カリキュラム全体の評価を行う。
4. 保健師および看護師国家試験の結果を分析し、次年度以降の教育・指導につなげる。
5. 毎年度、カリキュラム評価報告書（各授業科目の教育評価や卒業時学生による教育評価調査等を掲載。学内ホームページにおいて公開）を作成・公表し、教育の成果と課題を検討する資料として活用する。
6. 学生が、自己の成長を適切妥当に評価できるよう学修ポートフォリオの作成・管理を促す。

学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。